

第3回 パラスポーツの振興と
バリアフリー推進に向けた懇談会

—議事録—

日時：令和5年12月19日(火) 13時15分～14時30分

場所：東京都パラスポーツトレーニングセンター

【木村次長】

定刻になりましたので、「第3回 パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」を開会いたします。

開会に当たりまして、座長の小池知事よりご挨拶を申し上げます。知事、よろしくお願ひいたします。

【小池知事】

12月も残り少なくなってきました、お忙しいところ、今日は調布まで足を運んでいただきましてありがとうございます。応援大使の皆様方にはずっと応援、まさに応援していただいております。そして様々な形でいろいろな機会を発信をしていただいております。ありがとうございます。

この東京都パラスポーツトレーニングセンターは、競技力の向上だけでなく、障害のある方もない方も、パラスポーツに親しむ場として、今日は皆様に親しんでいただきました。

今日は皆様方に、実際にパラスポーツやってみてどうだったか、初めてのご体験の方も多と思います。いろいろなご感想をお持ちだと思いますので、そういうところでご意見をいただければと思います。

2020東京パラリンピック大会、今度は2025年に世界陸上とデフリンピックを開催することになっています。この機会を捉えまして、よりインクルーシブな街・東京にしていきたいと考えております。

誰もが円滑にコミュニケーションができる、デフリンピックということは、耳が不自由な方々と、どうやってスポーツで、たとえば「スタート」といっても「よーい、ドン」といっても、「ドン」という言葉が聞こえないときにどうやって伝えればいいのか。それから競技と競技の間に、どうやってコミュニケーションを図るのか。手話もそれぞれ言語によって違って来るなどなど、課題もたくさんあるのですが、しかしながら目指しているのはインクルーシブな街、東京ということでございます。

誰もが円滑にコミュニケーションができるユニバーサルコミュニケーションの促進ということで、様々なテクノロジーも有効に活用していきたいと思っております。

もちろん東京2020大会のレガシーを活かしていくということで、ハードとソフトの両方のバリアフリーを目指してまいります。

一人一人が個性を生かして力を発揮できる、それがまさに共生社会でございますので、その共生社会を実現するためにも、パラ応援大使の皆様方のご意見を伺わせていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

【木村次長】

ありがとうございました。続きまして、東京都の取組について、私の方からご

報告をさせていただきます。

資料の方ですけれども、手前のタブレットでもご覧いただけます。それからモニターの方でも大きな画面に映りますので、そちらも併せてご覧いただければと思います。

それでは東京都の取組ということで、左上の報告事項1と書いてあるところをご覧ください。

まずデフリンピックは、デフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会で、100周年の節目となる大会を日本で初めて開催します。

大会に向けた準備を進めるとともに、大会の気運を盛り上げる取組のほか、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながるユニバーサルコミュニケーションの促進など、様々な取組を展開しております。詳しくはご覧いただいたとおりでございます。

それでは次のページをご覧ください。

こちらはパラスポーツイベントの実施報告でございます。

東京2020パラリンピックの感動と記憶を未来へ継承するため、8月24日に「TOKYOパラスポーツFORWARD」を開催しました。

また、本年11月には、デフリンピック2年前を契機といたしまして、聴覚障害や大会への理解を一層深めるため、「みるカフェ」を期間限定で原宿にオープンいたしまして、大使の皆様をはじめ、多くの方にご来場いただきました。どちらもたくさんの方にご覧いただいております。

それでは次のページをご覧ください。

こちらからはバリアフリー化の進捗でございます。

まずハード面からご説明させていただきます。ハードの面につきましては、鉄道駅において、左上、車椅子利用者対応トイレの整備ですとか、エレベーター設置等によるバリアフリールートの確保、ホームドアの整備等を進めてまいりました。

また左下ですけれど、道路において横断歩道へのエスコートゾーン整備、都道のバリアフリー化、無電柱化を進めるほか、まちの面的なバリアフリー化も進めております。

右に視線を移していただいて、公共交通では、ノンステップバス、ユニバーサルデザインのタクシー、割と街の中でも見かけるようになったかと思っておりますけれども、その普及を促進しております。建築物におきましては、宿泊施設のバリアフリー化を支援してまいりました。

それでは次のページをご覧ください。

こちらはバリアフリーのソフト面でございます。

ソフト面におきましては、情報バリアフリー化の取組と、心のバリアフリーの普及の二つがございます。

左側の情報バリアフリーの取組として、主なものとしたしましては、一番左下

にございます、たとえばデジタル技術を活用した遠隔手話通訳や電話代理サービスなどの、聴覚障害者等のコミュニケーションを支援しております。

また、右側の心のバリアフリーの普及に向けまして、様々な取組を進めております。

なお、こちらには載っておりませんが、2024年3月には、新たな計画を策定しまして、福祉のまちづくりのさらなる推進を目指しているところでございます。

続きまして、次のページをご覧ください。

こちらはパラ応援大使の皆様のご協力をいただきました活動報告でございます。

ご覧いただいておりますとおり、大使の皆様には、機を捉えた応援メッセージの発信等、様々な取組に多大なるご協力をいただきました。この場を借りまして、御礼申し上げたいと思います。

こちらは応援メッセージという形で発信させていただいております。

次のページをご覧ください。

こちらは同じく応援大使の皆様の活動報告でありまして、様々な活動に大使の皆様にご協力いただいております。

例えば「TOKYO パラスポーツ FORWARD」などの関連イベントに多数ご参加いただきまして、SNSで発信いただいたりとか、パラスポーツの振興とバリアフリーの推進に寄与していただいたところでございます。本当にありがとうございます。

それでは次のページをご覧ください。

こちらは先ほどですね、まさに大使の皆様へ、たった今ご体験いただいた、パラスポーツにチャレンジでございます。

左側の車椅子を用いたパラスポーツ体験を、根木様のご指導のもとに体験していただきました。

また、右側に書いてございますけれども、オノマトペ卓球、音が出る、音を見える化する卓球でございますけれども、こちらにも体験いただいております。こちらにも気づいたことがあれば、この後の意見交換の場で、ご発言をお願いできればと思います。

それでは次のページをご覧ください。

最後に、今後について、でございます。

2024年、来年にはパリでのパラリンピック競技大会、さらに、2025年には、いよいよ東京で、世界陸上とデフリンピックが開催されます。

11月には開催基本計画が策定されまして、以下、ご覧いただきますように、両大会とも3つの大会開催ビジョンが示されました。

引き続き盛り上げに向け、大使皆様の知恵やお力を是非お貸しいただければと思います。

以上が東京都の取組の報告でございます。

それではさっそくではございますが、続きまして、意見交換に移ります。

なお、意見交換に先立ちまして、次のページご覧いただけますでしょうか。大使の皆様事前にアンケートを実施し、モニターに表示しております3点について、あらかじめアンケートを取らせていただいております。

次のページをご覧くださいまして、こちらは細かく書いておりますけれど、皆様から寄せられた主な意見等でございます。

まず、1点目「共生社会が進んだ未来の東京はどんな「まち」になって欲しいですか」という質問については、様々なご意見をいただいております。

「障害の有無や程度に関係なく、誰もがそれぞれの形でスポーツを楽しみながら、夢や感動をともに感じ、お互いが違いを認め、理解し、尊重しあって暮らせる「まち」を」というご回答をいただいております。

続いて、次のスライドをご覧くださいましてでしょうか。

こちらは「共生社会が進んだ未来の東京に向け、パラスポーツをどのように生かせるか」という質問ですけれど、これについては、「パラスポーツをもっと発信し、障害の有無に関わらず、誰もが可能性に溢れていることを知ってもらいたい。」という回答がございました。

また、誰もがつながるきっかけとして、「高齢者や子供たちを見守る地域のつながりに、パラスポーツを通じて、絆が生まれていったらいいな。」というご回答もいただいております。

続きまして次のページをご覧ください。

3点目の質問「大使自身が行いたい活動・発信、または大使同士の連携等」についてアイデアをいただきました。

パラスポーツやバリアフリーへの関心を拡大するため、学校訪問を通じた活動や、ラジオ・テレビ番組を立ち上げる、SNS等を活用し、アスリートを身近に感じ、もっと興味を持ってもらえるような発信をするなどのアイデアを頂戴しました。

また、大使同士の連携では、大使チームとしてのスポーツイベントへの参加ですとか、各大使の分野で活動支援の共有など、様々なアイデアをいただいたところであります。

いただいた意見は、すべて、お手元の資料に一覧にしてございますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上がアンケートの結果でございます。

それでは、こうしたことも踏まえまして、早速、皆様のご意見をいただければと思っております。

こちらから順番にご指名をさせていただきますので「2025年世界陸上・デフリ

ンピックとその先へ「パラスポーツやバリアフリーを通じた共生社会の実現」をテーマにご発言いただければと思います。

また、先ほどの「パラスポーツ体験」を通じて気づいたことがあれば、併せてご発言をお願いします。

それではまず、三浦様の方からご発言をいただければと思います。

【三浦 浩様】

三浦です。

このパラトレセンは、ここができてから、僕も今、2024年のパリのパラリンピックを目指して、ここを本拠地にしてパワーリフティングの練習をさせていただいて、本当に嬉しく思います。

ここができたことによって、今までいろんなジムに行きながらトレーニングしてたんですけども、今はここに来れば全てが整っているっていうことで、まずはやっぱりこういうところができるっていうのと、僕、今、志穂美悦子さんとトレーニングしてまして、志穂美悦子さんもここに来て、一緒にトレーニングして体を鍛えてもらっている。

なので、障害者だけが使えるんじゃなくて、いろんな人と一緒に僕らとトレーニングができるっていう環境があることに、今後の発展をやっぱりもっともっといろんな方に来ていただいて、まずは一緒にトレーニングしてもらおう。そこにパラスポーツも体験してもらえる。または、今度、日常で障害者の方と健常者の方が、どう生きていって、どう接していけばいいかっていうのは、やっぱりこういうところで一緒にやっていくことによって、もっともっとわかり合えると思うので、まずはすごくここがあってよかったなど。

今日も午前中、小学校4年生の講演会に行ってきたんですけども、実は点字ブロックの持ち出しというか、簡易点字ブロックを持ってまして、それと自分の日常使う車椅子を持って行って、車椅子に乗る人と介助する人の、お互いの気持ちをどうやったら感じるのかっていうのを体験してもらったりとか。あとは白杖を使って、介助する人と白杖使っている方が、どういう関係で、どう誘導すれば、その方がよく思ってくれるのかとか、どう誘導しなかったらこうなっちゃうんだなっていうことの感情も感じてもらえる。

今後も応援大使として、そういうことをもっともっと広めていって、そこにもまたパラスポーツを感じてもらえたりとかして、ということも今後もやっていきたいなと思います。

【木村次長】

ありがとうございました。続いては野村様、お願いいたします。

【野村 祐介様】

先ほど車椅子でのリレーを体験させていただいて、前もって思っていたことがある程度、確信に変わった部分がありました。かなり楽しかったっていうのがひとつありました。今までで一番盛り上がったんじゃないかなぐらいにすごく楽しめた。

この2020パラリンピックのソフト面でのレガシーを生かすという意味でも、これだけ楽しいコンテンツっていうものを、今まで推奨または管理してきたものっていうものを、これから共生していくというところで、例えばの話ですけど、キッズパークとか、例えばラウンドワンみたいなアミューズメントパークにああいうアトラクションがあっても、全然ものすごく楽しいと思うんですよ。またはそういうものがある街っていうのって、ものすごく誇らしいというか。

そういう街ってなかなか存在していなくて。でも東京って一般の方もすごいそういうものを一緒に楽しんでもらうんだよっていう場を作るっていうのは、すごく誇らしい気持ちになると思うんです。

「みるカフェ」のイベントに行かせていただいたんですが「ベーカリーカフェ632」って、実は僕の社会人初の社員の地なんですね。20年前にあそこで働いていまして、その地で「みるカフェ」をやったということを知って、真っ先にきた感情が「誇らしい」だったんです。

やっぱり本当にそういうところで誇りしかなかったり楽しかったり、そういう感情を落とし込んでいくっていうことが、今まで管理したり推奨したものを共生するっていうところに一番手取り早く、スマートに入っていくんじゃないのかなというのを、今日体験をして思いましたし、2020のときにエレベーターやホームドア、またはユニバーサルシティデザインのタクシーっていうものが、すごく普及したというところもそれを契機にというところを、まずそんなに皆さん一般的には知られてないのかなと思います。

僕も子供がいるので、ベビーカーの乗るとき、エレベーターないとやっぱりすごく怖かったり不自由だったり。またホームドア、子供にはすごく駅のホーム、地方の駅、やっぱり怖いんですよね。ちゃんと手を繋いでいないと安心できないというか。

ホームドアがあれば、どれだけ多くの方が安心感を持って、普段何となくの中で暮らしているか、ユニバーサルシティデザインって、僕みたいに体が大きい人間とか、荷物をいっぱい持つ時って、ユニバーサルシティデザインタクシーを探して拾ってしまうんですけど、こういうのって実は2020を機に拡充していったんだよってことを、スマートにPRできたらすごく一般の方々も、こういう取組ってすごいんだねって。

何かしらの不自由な部分がある方でも、ない方はもっと快適に暮らせるっていうのがユニバーサルだっていうことを、すごいいい機会だと思うのでPRしてあげたら、もうすごくスマートに入ってくんじゃないかなっていうのをすごく今日体感しました。

【木村次長】

ありがとうございました。それでは、続きまして稲垣様よろしくお願いたします。

【稲垣 具志様】

皆様こんにちは。東京都市大学から参りました稲垣と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私は専門家ということで、まちづくりということで、都市計画や交通工学といったようなところでバリアフリー研究をずっと続けているところでありまして、その視点からコメントをするのであれば、月並みなことを、月並みといえちよっと失礼な言い方になるかもしれませんが、とにかくこのパラスポーツを体験するためには、この場に来ることがまず重要なので、ここまでのアクセスをいかに円滑にするのか、安全にするのか、といったようないつもこの発言をしているところです。

この辺りはもう肅々と進めていかなければならない課題だとは思っているんですけど、今回アンケートで「あなた自身が一体どういうことができますか」っていったようなことを問われたときに、いつもまちづくりの専門家ですとか言っているわけですが、私は大学教員ですので、大学生に対する教育という観点で何ができるかなと思ったときに、自分が今何をやってるかなというと、大学院の授業でユニバーサルデザイン特論という、大学院の授業には特論というのがつくんですけれど、ユニバーサルデザイン、まちづくりを基本とした14回の授業をやってるんですね。

もちろん受けにくる学生は、都市工学とか建築の人たちが大体受けにくるのですが、意外と他の機械工学とか情報工学であるとか医療工学、バイオ系とか、結構いろんな、自分の分野の科目でないのに、分野をまたいで受けにくるような授業になっています。

彼らは、自分はまちづくりの専門家ではないけれども、何かしらこの自分が大学院生として持っている専門分野が、共生社会のまちづくりのために活かせるじゃないかと、少しでも考えて受けにきてくれているはずなんです。

そこで僕ができることといえば、都市工学とか建築とかまちづくりの分野を超えて、機械工学だとかものづくりの方だとか情報の方とか、あるいは社会学、心理学の大学生が、どのように人々の多様性を受け入れて、自分の専門をこれから社会に出たときに発揮できるのか。

こういったことをやはり大学としても、これから未来を担う大学生たちに、やっぱり述べ伝えていかないといけないな、というふうに思っています。

まずは「自分の専門領域が、共生社会のまちづくりに活かせるんだということ

がよくわかりました」というレポートが14回の授業終わった後に集められて。いつも僕、非常に楽しみに読んでいるレポートです。

そういった意味でも、私がこれから果たさなければならない教育者としての役割も大きいのかなと思ったところです。

先ほどのこの体験で私がすごくいいなと思ったのは、卓球のオノマトペ体験のデモンストレーションですかね。やはり耳の聞こえない人とか聞こえにくい人は、視覚情報ありますので、卓球でボールがどのように動いているかは分かるんですけども、臨場感やイベントに対する参加の質を高めるために、やっぱり音情報というのはかなり重要なんだな、といったようなところあります。それをいかに自然に、漫画のように出ましたけれども、こういった技術がこれからどんどん進展していくと、スポーツに参加する一般の方々の質も、どんどんレベルが上がっていくんだろうなということを感じたところです。非常に楽しい体験をさせていただきましてありがとうございます。

【木村次長】

ありがとうございました。続きまして林家様、よろしく願いいたします。

【林家 三平様】

よろしく願いします。先ほど、テリーさんや皆で車いすに乗らせていただきまして。テリーさん、全くルール聞いていませんでした。そんな中で楽しくやらせていただいて、やっぱり視界が低いと、なかなか高さというものに対しての恐怖感っていうのが生まれるんだなって思いました。

それと、今、私、寄席に通ってます。上根岸という駅から浅草寿町行きの都バスに乗っています。ちゃんと都バスに乗ってるんです。タクシー使ってないです。ノンステップバスって下がるんです。車高がシューっと。本当にお年寄りもそうですけど、障害を持った方が乗りやすいようなシステムになっていて、運転手さんも手際よく乗せてくれるんですね。そういう教育がしっかりなされている、都営バスってすごいなと思いました。ゆっくり走ってますよ。飛ばしません。都バスだけに。

また、私の子供は小学校1年生、6歳になりまして、小学校1年生ぐらいから、パラリンピックやデフリンピックの教育をしていった方がいいのかなと思いました。素直な意見というのは小さいときから生まれてくるんだな、と思いますので、そういう目線を持っていただいて、教育に組んでいただければと思っております。よろしく願いします。

【木村次長】

ありがとうございました。続きまして、イルカ様、お願いいたします。

【イルカ様】

私、先ほど体験をさせていただいたということが、何よりもやっぱり大きいことだなんて、本当に改めて、皆さんもそう思われたと思うんですけど、やっぱりそう思いました。

車椅子に関しては、私も1ヶ月ぐらい骨折してコンサートやっていたことがあって。そのとき、車いすをただ押してもらってやってたので、今日初めて自分でやってみるっていうことを体験したんですね。そうすると必死になっているので、周りのものがほとんど、今日は初めてだったので、特に、全く見えない状況だったんです。

慣れていらっしゃるとはいえ、やはり大変なことをされているので、やはり周りのものが見えないときもあるんじゃないかなということも非常に感じました。

やはりこれは車椅子に乗っている方だけが気を付けるのではなくて、周りの方も一緒に同じ気持ちになっていく。そういうことがやっぱりすごく大切なんだということを実感させていただきました。

そして子供の頃、車椅子があると乗ってみたかったんです。だけど、それは大切なものだから、おもちゃじゃないから乗っちゃいけないと言われたんです。それを思い出しました。今、いろいろお子さんの話など伺っていると、逆にそこはそうではなくて体験させるということが大切んじゃないかなと、今日、自分が体験させていただいたときに感じましたので、できたら、小学校、幼稚園、保育園、こうやって生活してる人がいるんだよ。自分が乗って見たらどうかなっていうことを、触っちゃいけないということではなく、どんどん触って体験してもらおうということが、もしかしたらこれはすごく大切なことに繋がるんじゃないかな。教育として。それが大人になったときに、とても大きなものになる気がいたしました。

私自身、今日、今皆様のお話を伺っていても、今なるたけゆっくりしゃべっているのですが、声がわんわんわんとなるときがあります。もう年齢的に70過ぎましたので聞こえにくいんですね。そうしますと、これは他人事じゃない、自分事なんです。ですから、車内の放送の音が聞きづらかったりとか、そういうことはもう頻繁にあります。

私も父がもう95歳で、出かけるときは全部車いす押してますし、そう思いますとね、本当にみんなが自分事だということをどんどん感じてもらうために体験したり、体験しなくても、今日も確かに聞こえづらいなというようなことも今、思っていますし。

そういうことをみんな自分のことであるということで、捉えていくことが大切だなということを再認識いたしました。

ちょっと話が長くなりますが、この間私、車のところでちょっと信号待ちをしていましたら、ある車の方が信号が黄色だけどちょっと横断歩道に突っ込んでしまったんですね。

そしたら杖をついてらっしゃる方が待っていらっしゃったんですけど、信号が変わったので渡ろうとしたんですけど、前に車がいるのが見えない。私は遠くにいたので「危ない」と思ったんですけど、その方はちょっとぶつかりそうになったんですが、周りにいた方3人ぐらいが「危ないですよ」ってこちら側にまわして、一緒に横断歩道を渡っていたという光景を目の当たりにいたしました。

やはり最終的には人々の心だなと思いますのでね。日本古来からある、察する心を大切にしていきたいなというふうに、今日も思いました。

【木村次長】

ありがとうございました。続きまして花岡様、お願いいたします。

【花岡 伸和様】

パラ陸上の花岡です。

今日は、体験からこの会議に入らせていただいて、すごくありがたいなと思っています。というのも、前回テリーさんが、理論武装して硬い話を真面目にするんじゃなくて、もっと本音で語ろうよとおっしゃって、僕、実はハッとしたんですよ、あの言葉で。そうだなっていろいろ考えてきたけど、ちょっと面白くなかったな、と思ったので、今日は何も考えずにやってまいりました。

今日体験していて思ったのは、共生社会って目指すものではなく、既にあるものだとして普段から考えてはいるのですけれど、そういった意味では、共生社会を実現しようっていう言葉がなくなるっていうところがゴールなんだなっていうふうに思っています。

今日の体験がまさに共生社会を実現しようというそういう言葉をなくしていく一つの取組だったのかなと感じました。共に生きるためには、共に過ごす時間が大事だっていうのを今日、本当に皆さんと、車椅子をおもちゃにして、楽しんで同じ時間を過ごす。それが何より大事なのかなと思いました。なぜ、そうやって混ぜなきゃいけないのかって考えると、日本の教育って特別支援学校が非常に堅牢に、教育の機会を誰1人取りこぼさないという形でよくできたシステムだとは思いますが、その代わり分離教育というのが大人になってから社会に出て、障害のある人のない人をどうやって混ぜるかっていう、そこを考えなきゃいけないというところを、実は生み出しているような気がして。急に特別支援学校をなくして、全部インクルーシブな教育にしていこうというのは非常に難しいことだと思います。ただ、別の方法で共に過ごす時間を作れるっていうのは、やはりスポーツの一つの大きな役割でもあるのかなというふうに感じました。

デフリンピックの話もしたほうがいいのかと思っていたのですが、そういった意味では、デフリンピックとか世界陸上の大会の場が、そういう共に過ごす場所になってほしいなというのが考えているところです。

ただデフリンピックの方の競技団体は、結構脆弱なんです、組織の体制が。

なのでパラリンピックの競技団体と比べると、大会を成功させるというところに向かうためには、非常に力不足だなと思っています。

行政の皆さんとしては、デフリンピックの競技団体が大会を成功させるにはどうしたらいいかというところまで見ていただいた方が、パラリンピックのように競技団体が自立して回しているわけではないので、共にみんなが過ごす場所を作るためには、まず競技団体を応援していただくのがいいのかなというふうに思っています。

その先に大会が成功して、そして、コロナがもう大丈夫なら、競技場にたくさんの方が詰めかけて、そこで障害のある人もない人も同じ体験をする、共に過ごす時間が生まれるといいなというふうになるといいなと思っています。

【木村次長】

続きまして、猪狩様、よろしくお願ひいたします。

【猪狩 ともか様】

アイドルグループ仮面女子の猪狩ともかです。

短くということなので、頑張って短くしゃべろうかなと思うのですが、今日皆さんと一緒に体験をして、イルカさんが、もっと周りに気をつけてあげないといけないんだなっていう意見をくださったということで、やっぱり体験することって本当に大事だと思っています、体験することもそうですし、実際に障害のある方とか、何か困ったことがある方と関わっていくことってすごく大事だと思っているので、それを今日みたいに堅苦しくやるのではなく、楽しく関わっていける機会っていうのが、これからいっぱいあったらいいのかなって思うので、楽しく障害のことを学べたり、そういった場が増えていくといいんじゃないかなと思いました。

【木村次長】

ありがとうございます。続きまして、根木様、よろしくお願ひいたします。

【根木 慎志様】

まず皆さん、第一部ではパラスポーツ体験、本当にありがとうございます。僕、今、最高に気持ちいいです、この時間。

いろんなことを振り返ってですね、東京のパラリンピックの大会がきっかけになって、それが決まったのが2013年9月なんですよ、ちょうど10年前なんですよ。その中で東京都では「NO LIMITS CHALLENGE」だったり、「BEYOND STADIUM」だったり、「チャレスポ TOKYO」だったり、本当に今まで多くのパラスポーツ体験があったんですよ。

振り返ってみると、小池都知事、実は2016年11月に一緒に車いすバスケット

ボールさせていただいて、初の体験だったと思うんですけど、見事にシュートを決めて。

そういういろんなことがあって、パラ応援大使ができて、こうして、また皆さんとパラスポーツを通じて、競技性だけでなく、実は日常の中にあるバリア、楽しみながらいろんなことを感じてもらえるって、まさにパラスポーツの素晴らしさかな、いうふうに思っています。

この後で世界陸上やデフリンピックがあるということで、スポーツの楽しみを知りながら、人間の可能性であったり、もちろん課題をしっかりと見ながら、誰もが楽しんで暮らしていける世の中を、この会でいったら、パラスポーツを通じてどんどん広めていこうというのを、本当に引き続き、この先何十年も、皆さんといっしょに活動できたらなと思います。

【木村次長】

ありがとうございました。続きまして、テリー様お願いいたします。

【テリー伊藤様】

一般の方がパラスポーツと聞くと、どうしても競技場でのスポーツという印象を持つと思うんですね。リアルに体験することもなかなか難しい。その中でもひとつ今日、アウトドアスポーツっていうものを考えてみたいんですよ。

僕は会社が恵比寿、都心にあって、障害者の皆様に対しても、非常に配慮されたシステムになっているんですよ。

ただ、東京も郊外に行くと、アウトドアスポーツ、キャンプですね。みんなやりたいけれど、それじゃ実際問題として、障害者の方がキャンプ場に行くと、そこで川辺に行けるか。トイレがあるかといったことを考えると、これまたすごく大変なんです。でもみんな楽しがっている。やりたがっている。

パラスポーツだけを一直線にやっていっても、なかなか僕は正直言って、一般の方には認識が高まらないというのがリアルな現実だと思うんですね。

先ほど根木さんとも話していて、根木さんも YouTube やっているけど、なかなか数字伸びないって言ってたんですね。でも、パラの選手でもいいし、障害のある方がキャンプ場に行くと1週間キャンプ張ると言ったら、それを24時間ずっと YouTube で紹介する、ものすごく数字集めて話題になると思う。なるほど、そうすることによって、一般の方が「こういう形で頑張ってるんだ」「ここが悩みどころなんだ」ってわかるみたいな形で。

パラスポーツという、ここのエリアではなく、一般の中にそれを入れ込んでやるという形にすると、今度ちょっと奥多摩行ってみたいなって、あそこいいなっていう普通の楽しみ方の中で、そういうものがあるというふうにやっていくというのが大事なんじゃないかなって。そうすることによって、愚痴も出るだろうし、しんどいよって、そういうことが逆に共感を得ると思うので。さらっとした

上辺だけでない、本音で。

根木さんもすごく仲がいいので、二人でいるとだいたいふざけたことばかり言ってるけれど、そういうことも、多分この席ではなかなか言えなくても、焚き火の席だったら言えるじゃないですか。そういうことも、これから必要になんじやないかなと思います。

先日、実は東京都が主催したファッションショーに私、5日間、渋谷で出ました。東京駅も銀座も全部出ました。

障害者の方がファッションショーに一般のモデルさんと一緒に出ていたんですけど、僕もレッドカーペット歩かせてもらったんですけど、立ち止まってしまったんですよ。その人があまりにもかわいいんで。ウォーキングしているのに立ち止まるなんて変じゃないですか。でも僕はその人の姿を見て、本当にいいなと思って、終わった後「すごくいいよ」って言ったんですね。何かものすごい良かったんですよ。そういうファッション体験をさせてあげられるといいなと思ったので、是非これからも応援していきたいなと思っています。

【木村次長】

皆さんありがとうございます。まだまだご意見あるかと思いますが、ご協力ありがとうございました。

それでは最後に座長の小池知事より、お願いいたします。

【小池知事】

皆さん、いろいろな観点からのパラスポーツ、またそこを越えて共生社会の実現ということで、お話をいただきました。そして、年齢や障害の有無に関わらず誰もが楽しむってということが、パラスポーツ。またパラスポーツを通じて共生社会を実現する。花岡さんが仰ったように、共生社会の実現って言っているうちは、まだできていないんだということで、でも2020パラ大会がひとつのきっかけになり、例えばホームドアがかなりの部分で付くようになり、そしてエレベーターについても、これも設置箇所が大幅に増え、ということで、実際にそれを感じていただいている方も、もう当たり前のように受け取っていただいているとは思うのですけれども、それこそが共生社会の実現が定着をするということに繋がるのではないかとこのように思います。

皆さんのお話、興味深く聞かせていただきましたが、稲垣先生の、学際というのでしょうか、それを越えていろいろな方がまちづくり、共生社会のまちづくりに関わって学んでくれるというお話が大変興味深かったです。まちづくりだけの話ではなく実際の切り口、例えば心理学からはどうか、社会学からはどうか。そういうアプローチをしてこそ、まさに共生社会になるのではないかな。学問のバリアを超えるということなのかなと思いました。

そして、今日は何よりも、体験いただいたことによって、応援大使としてのメ

ッセージも、さらに響くものになってくるでしょうし、これからも応援大使として、いろいろな場面でご協力いただければ、共生社会の実現という言葉がなくなる。完全に定着していく方向に行くのだらうと思います。

2025年には世界陸上とデフリンピックが開かれる。このエンブレム、かわいいでしょ。とても素敵なエンブレムが選ばれました。

唯一日本で聴覚障害のある方々のデザインの学校、大学があつて、そこの学生さんが応募してくださったもので、とても素敵な、そしてまた日本で開くということで桜のデザイン。親指のところのデザインが桜になっています。ぜひこのデザイン、またこれが当たり前のように溶け込んでいくような工夫を、これからもしていきたいと思っております。今日は本当に皆様ありがとうございました。

パラスポーツも、例えばボッチャひとつとってみても、障害のある人ない人、それはまさにバリアはないし、パワーリフティングもそうですよね。普通に健常者の人も一緒にやりますし。パラスポーツも、スポーツのジャンルとして確立し、障害のある人もない人も楽しめるような、そういう環境をつくっていききたいと思えます。

どうぞこれからも皆様方による発信や、ご意見のご提供をよろしくお願い申し上げます。

今日は、調布までありがとうございました。

【木村次長】

以上をもちまして、「第3回 パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。